



妙の光

通刊92号 復刊72号

2010年12月10日(季刊)

角田山妙光寺 発行

〒953-0011
新潟市西蒲区角田浜 1056
TEL 0256-77-2025

枯れ葉

晩秋の境内は一面に枯れ葉で覆われる。小春日和の中、茶色の枯れ葉の上に、真っ赤なモミジや黄色の銀杏の葉が乗っていると風情が一層増す。

しかし、雨が降れば地面に張り付き、風が吹けば舞い散つて側溝や木の根元に入り込み掃除の手間がかかる。以前はケヤキの枯れ葉が菊花作りの肥料にいいとかで、集めに来てくれる人もいた。そこで今年も「ボランテラ」と称して、皆さんにお手伝いいただききれいになつた。

去年までは敷地の裏山に捨てていたが、この秋は木の中に入れて米糠、石灰窒素、発酵菌等を混ぜて堆肥を作ることにした。農家の方に材料と技術指導をお願いしたが、ほんの数日で50度という熱を持つて発酵するのには驚いた。

西吹けば東にたまる落ち葉かな

藤村

焚くほどは風がもて来る落ち葉かな

良寛

第46世旭日苗上人の足跡を訪ねて

あさひ
にち
みょう

小川英爾

●妙光寺の後継争い

明治7年妙光寺では第45代住職の死去を受け、次の住職の地位を巡って檀徒を二分する対立が起きた。五ヶ浜村の遠藤本家を中心とする派と割前村の内藤本家を中心とする派が、それぞれに候補者を立てた。結果は妙光寺43代目の弟子で当時41歳の旭日苗上人を推した内藤本家派が負けた。内藤本家派の人たちは責任を取り、代表格だった内藤本家の屋敷の一角に旭日苗上人の隠居寺を設けて迎えようとした。しかし旭上人は隠居する年齢でもなく、そもそもそのような人物ではなかつた。旭日苗上人は妙光寺の46世と記録されてもいるものの、加歴といつて名誉住職のようなもので実際には就任しなかつた。

二箇村・内藤家の衰退を心配する手紙を親戚に数多く送るなど、郷里に対する思いも深かつた。用意された隠居寺は後に「割前説教所」と称して妙光寺の役僧が住み、妙光寺の出張所の形で昭和50年代まで続いてきたが、無住となり関係者と相談のうえ処分した。ご記憶の方も多いと思う。

ちなみに勝った派の推した日久上人が47世として就任、15年間在籍して亡くなつたと記録にある。旭上人の隠居寺を設けて迎えようとした。しかし旭上人はより年上だつたことが想像され、また生家が五ヶ浜遠藤家とあるから後継住職とはいえ互いに身内を推す争いで、その力関係が結果を決めたのかも知れない。

●旭日苗上人の生いたち

旭上人はその後、京都の本山の住職を経て宗門の高位に就くことになった。しかしこうしたいきさつなど意に介することなく幾度か妙光寺を訪ね、また生家の

旭上人は江戸末期の天保4年（1833）、旧巻町の仁箇村の内藤家に生れた。幼くして長岡の武士の家に養子になつたが体が弱くて戻される。その後13歳で妙

光寺43世日瞻上人の弟子になつた。この日瞻上人は生涯の説法一万席を越す当時の高僧と謳われた人で、その生まれが同じ内藤家だつたから弟子入りはその縁によるものだ。

やがて現在の千葉県にある檀林（当時の僧侶の教育機関）に進む。修行の後は各地の住職、なかでも佐賀の本山光勝寺、京都の本山妙覚寺と本圀寺二カ寺の住



旭日苗上人

職を勤め、その軽妙洒脱な説教が聴く人を引き付けてやまない魅力で全国に知られた。晩年は日蓮宗のトップである管長にまでなるなど、明治時代に活躍した日蓮宗の逸材と称された。大正5年（1916）8月8日84歳で亡くなり、自身で用意した京都と妙光寺の墓に眠る。

● 思いは海外へ

旭上人が当時の宗門の逸材と言われたのは、その生涯で海外渡航歴40数回、現在の中国、韓国はもとより、インド、アメリカにもその足跡を残し各地で布教して歩いたことによる。自身が行けないときは弟子を派遣して、その地に寺を開く基礎を作つた。明治から大正にかけての時代、しかも60才を過ぎて宗門の要職を引退してからのことで、上海往復を年に4回という年もあり、その活力には驚くばかりだ。

この時代の日本国の対外政策、ことにアジアに対しでは侵略戦争として反省すべきことが多い。当時の韓国で4カ所、中国の上海で1カ所開いた寺は、戦争中に接収されて今はない。しかし大正2年に弟子を派遣してアメリカのロサンゼルスで最初に開いた教会堂（寺になる前の小規模なお堂）は、現在まで日蓮宗口サ

ンゼルス教会として活動している。そのロサンゼルス

へは83歳で出かけ、在米日本人信者から大歓迎されたとある。

インドに渡ったのは68歳だった。ベトナムからカルカッタ、ボンベイとインド各地を歩き、お釈迦様が悟りを開いたブッダガヤにある寺には旭上人が寄付した時計が今も掛っていると聞いた。「68歳の年インドへ向かって出帆の日は8月21日でちょうど師匠の祥月命日に当たり、しかも師匠の亡くなつた歳と自分は同年であつた」と記し、「この意義あるご縁で再度インドに渡り寺の二つ三つを開くつもりだつた。しかし、長崎まで行つたところで京都の本山・本圀寺住職をやれど、電報で呼び返されて叶わなかつたことが生涯の心残り」とも語つている。

その瘦身で飘々とした風貌、語りは氣宇壮大で洒脱。当時トレードマークの白いあごひげを真似る僧侶が全國に広がり、明治天皇の葬儀に集まつたあごひげの僧侶が多くて不謹慎だと問題になり、急きよ式場の外で剃り落とさせた。そんな逸話が残るほど魅力的な人物だった。

●海外布教の素志

「私が海外布教の志を懷いたのは20歳のころからであった。いよいよ実地に着手したのはさきに言う通り61歳であつた。20歳の年、函館の実行寺で年を越したことがある。そのときは自分の放浪時代でちょうどそのころ函館へ来て教会を持っていたロシア国キリスト教の牧師と懇意となり、その牧師から海外の事情を聞き、得るところがあつた。牧師からロシア国に来てはどうかと勧められることもあつた」

●アメリカへ 『日宗新報』 大正4年9月5日号から)

大正4年夏、すでに管長職を辞し本圀寺を隠居していた旭日苗上人は、おりからの万博に合わせて開催されるサンフランシスコ万国仏教大会への出席を兼ね、自ら北米・ハワイに布教に赴くことになつた。7月10日、横浜出帆の天洋丸に乗船。(中略)一行の中でも日本各宗代表として参列する曹洞宗の日置師の豊類肥大なる体躯と、それと対照的に白ひげを長く垂らした旭日苗上人の瘦身とが、ひときわ内外人の目を引いた。旭日苗師はこのとき83歳の高齢であつたが、驚くべきことに一人の従者も連れておらず、しかも前管長ながら三等客船であつた。日置師はこのとき69歳。すでに

後年の永平寺貫主・曹洞宗管長の貫禄を備えていた。日置師は「あなたはご老体なのにお一人ですか」と尋ねた。旭日苗上人は「はい。老年での世へ一人で行く支度をせねばなりませんので」と答えた。

船は7月26日、サンフランシスコに安着。同地小川ホテルで一行の歓迎会が行われた後、旭日苗上人はロサンゼルス教会から迎えに来ていた30余人の信徒の案内で、ロサンゼルス万博を鑑賞した。

●アメリカで聴衆を魅了（『日本仏教渡米史』から）

7月29、30日の両夜、ロサンゼルスの市公会堂にて、東西本願寺・高野山・日蓮宗の四教会連合主催のもと、



通りに面した建物の外観

日置黙仙・山上曹源・旭日苗の三主賓による歓迎大講演会が開かれた。30日夜、旭日苗上人には「忍耐」の題の講演が予定されていたが、一行に遅れてロサンゼルスに着いたため前日の講演を欠席しており、何分80歳を過ぎた老年で、その上この日はサンフランシスコに入れ歯を忘れて来ていた。そこで関係者は、ほんの顔見せ程度の挨拶で終わると思つていた。ところが開口一番「私はアメリカという所は、何もかも日本と反対であると聞きました。来てみると果たしてそうで、今晚は夜なのに旭が出ました」と始め、ユーモアに富んだ大広長舌を延々と振るい、その鶴のように上品な風采とあいまつて、一千



内部を案内してくれた親切な住人

余人の聴衆をすっかり魅了してしまった。

●上海本園寺跡訪問

以来100年が過ぎているが、少し前までは妙光寺でも旭上人のことを懐かしそうに語る高齢檀徒がかなりおられた。以前に巻町の偉人として郷土資料館で遺品を展示する展覧会が開かれ、お手伝いをしたこともある。そしてこの10月、縁あつて檀信徒の方々と上海を訪ねる機会を得た（この経緯は9ページで）。目的の一つは旭日苗上人が明治32年69歳の時に単身上海に渡り、中国大陸で最初に開いた日蓮宗寺院があつて、大正11年に後任者が建て替えた寺が現存するとの話を聞き、訪問したのだった。

個人的に5年前初めて訪ねたときは、内部がアパートに転用されていたものの当時の建物がそのまま残っていた。その後上海万博による再開発で壊されると聞いていたが、その計画は延期になつたとかで通りに面した街の一角に当時のままあつた。今回も親切なアパートの住人のご好意で、内部の隅々まで見せていただくことができた。天上や欄間など和風の作りが随所に残り、100年の時間を感じさせない何かがあつて心が震えた。

一緒に旅した方たちも同様な感想を持たれたようで、こんな時代もあつたこと、こんな人物もいたことをお伝

えしたくてご紹介しました。

（引用文ほか参考に都守基一氏編集発行『上海本園寺略史』2005年を使用しました）



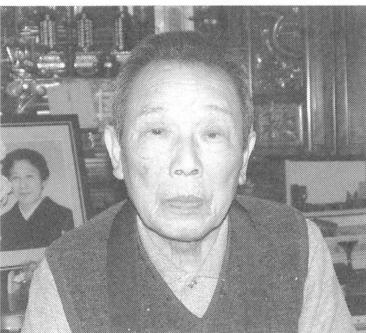
ガイドと住人に熱心に質問する参加の内藤さん。
内藤さんも関係者の子孫のひとり。

若い頃からの苦労続き

下山 石山 太郎左衛門（75歳）さん



石山家の歴史は長く、はつきりわかるだけでも現在の石山さんで14代目になる。その先是250年前の寺の火災で過去帳が焼けて記録がない。仏壇にあつた家の過去帳も父親が持ち出したので、古いことはわからぬと言ふ。



戦前の話だが、父親が仕事先のスマトラ島から体を壊して戻って以来仕事をせず、やがて家族を捨て財産と仏壇、庭木、庭石まで持つて出て行ってしまった。残されたのが当時19歳の石山さんには、母親と6人の弟妹だった。さらにある日突然「この家を買つたので牛舎にするから立ち退け」と言

う人が現れた。1週間待つてもらい、親戚知人を駆け回り金を借りてやつとの思いで買い戻した。そのとき「気の毒でお前の苦労は見てられない。返済は期限なしでいいよ」という人がいて、助けられた恩が忘れられない。

22歳で「あんたはしつかりしているから娘を嫁にやつてもいい」と親に言われ、1歳年上のフミさんと結婚。残された僅かな田畠の耕作に加え、土木作業員として働いた。その無理が過ぎて体を壊したとき、農協に欠員が出たからと説きがあり、26歳から定年まで33年間勤め上げた。それまでやつたことのない算盤を覚えて主に金融と共済を担当した。

農協職員とはいえ給与は少なく、優しくて明るい、芯の強い妻のフミさんが、僅かな田畠の農業作業で支えてき

た。信仰熱心だったが病弱な母親が臥せてからは、フミさんが代わってお寺参りを欠かさなかつた。石山さんも定年直前、前任者から本堂建て替え工事で大変なお寺の世話を任せられ、今に続いている。

退職の翌年、念願の家を新築した。その家に入つて8年後に母が、さらには3年後の平成19年には最愛の妻フミさんが逝つた。いま2人の娘は嫁ぎ長男夫婦も別所帯なので、石山さんは一人で暮らす。朝7時に起きると20分、夕方は15分の仏壇参りを欠かさない。夕方のお参りを終えると、手料理のつまみでテレビのスポーツ中継を見ながらの晩酌が日課だ。一昨年に生前戒名を、この春には一日研修も受け、寺の行事にはバイクに乗つて駆けつけるから、お経も覚えた。

「息子の家族が戻つてくれると俺も安心だし、一緒に暮らせばお互いの生活も楽になるんだが……」と心配の種は尽きないが、これまでの苦労と信心からか弱音は口にしない。

寺の動き

お会式・生前戒名授与式

10月13日の日蓮聖人ご命日法要を「お会式」と呼びますが、その「第729遠忌お会式」を少し早めの10月3日に當りました。併せて希望者に生前戒名をお授けする式を行い、東京、神奈川、埼玉の方も含めて23名が受けられました。生前戒名授与式は9年目になり、総計で137名になりました。来年以降も秋になりました。

祖師堂での法要



ギターの奉納演奏



住職3人の楽しいトーク

さらに梶田住職に同行された溝淵さんが、京都で有名なクラシックギターのプロとのことで急きよ演奏をお願いしました。快く受けていただき、響きの良い本堂で名曲から馴染み深い曲まで30分余り、それはそれは至福のひとときでした。

行いますので、気軽にお問合せ下さい。昼食後、いつもの法話と趣向を変えて、「住職三人トーク」と名づけて松本・神宮寺の高橋住職（臨済宗）と京都・法然院の梶田住職（浄土系単立）の高名なお二人に小川住職の3人が、2時間自由に語りました。それぞれが話し出したら止まらない3人ですから、楽しい話題も沢山出て、100人を超した本堂の会場は笑いで一杯。とても贅沢なトークショーといえます。最後にユニークな質問も多く、時間を超過して名残惜しく閉会しました。

行いますので、気軽にお問合せ下さい。昼食後、いつもの法話と趣向を変えて、「住職三人トーク」と名づけて松本・神宮寺の高橋住職（臨済宗）と京都・法然院の梶田住職（浄土系単立）の高名なお二人に小川住職の3人が、2時間自由に語りました。それぞれが話し出したら止まらない3人ですから、楽しい話題も沢山出て、100人を超した本堂の会場は笑いで一杯。とても贅沢なトークショーといえます。最後にユニークな質問も多く、時間を超過して名残惜しく閉会しました。

●一日研修会

お経を体験する一日研修会を11月21日、春に続いて2回目を開き、29名が参加されました。初回の方は入門コースで数珠の持ち方から始まり、2回目の方はお経の内容について等々、朝9時から午後3時半まで研修していただきました。11月とは思えない穏やかな晴天で、昼食休みには岩屋まで散歩するなど、秋の妙光寺を堪能したことでしょう。

皆さん最初は緊張されますが、すぐに打ち解けて「美味しいご飯もあつて一日レジャーに来たようだ。楽しかった」と言つて帰られた方もあります。来春は4月10日(日)に予定しています。ぜひ気軽にご参加下さい。

感想の一部です

- ・難しいと思っていましたが、気軽に参加できました。
- ・大変楽しい研修でした。最初は緊張してましたが勉強になることが沢山ありました。食事もおいしかったです。
- ・初めての一日研修に参加させていた



大広間での昼食



暖かい客殿でのお経練習

だきました。数珠の持ち方、正座のコツ、お線香の意味まで教えていただき、大変良い勉強になりました。お経の方ももう少し習いたいと思います。これからもよろしくお願ひします。

- ・2回目の研修になりますが、今回お経や太鼓のルールを知り、皆がそろつて行えることのすばらしさを徐々に味わっております。もっと色々なことを勉強したいと思います。

●上海団体参拝旅行

いつも依頼している旅行社社JT B新潟支店から、上海万博のため新潟発着チャーター便が事情で大幅な空席が出たので、上海を基点にしたツアーをやりませんかとの誘いがありました。そこで急きょ中国天台宗の本山である天台山国清寺参拝と、上海本園寺跡の見学、上海市内観光を計画し、行事の参加者を中心のご案内しました。

折悪しくも尖閣諸島問題もあり参加者8名でしたが、3泊4日格安でかつ十分満足のいく旅になりました。

定期改修工事に入ります

新本堂が完成した際、建築業者から10年ごとに外壁塗装など補修をすると建

ます。鉄骨塗装、外壁塗装、屋根防水が中心ですが、年内にまず男性トイレの床を直し、さらに玄関上がりの敷台を幅広板に取替えてトイレとの段差を解消します。積立金の範囲内の工事ですので、檀信徒のご負担はいたしません。ご承知おきください。

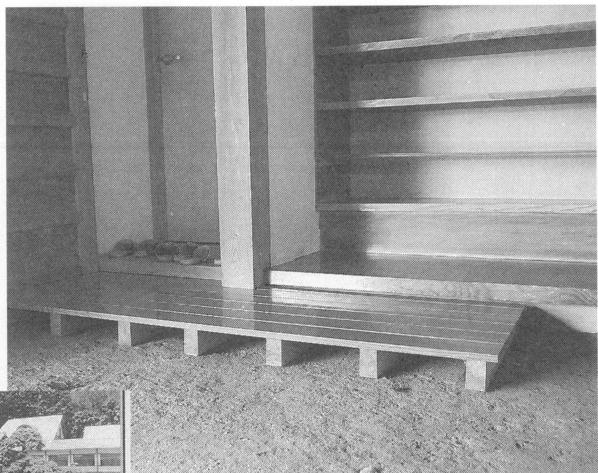
新パンフと妙光寺案内

新しい『安穏廟・杜の安穏—池の上』が夏に完成しましたが、これまでの案内パンフレットが残っていたのでそれを流用していました。それもなくなりまし



天台山国清寺総門前で

日蓮聖人は日本の天台宗比叡山に学びましたが、比叡山を開いた最澄は中国の天台宗に学び、その本山が天台山国清寺です。いわば天台山は日蓮宗の源流といえます。上海から片道600kmをバスで高速道路6時間余りの移動はやや強行日程でしたが、清新な佇まいの国清寺参拝は感動的でした。



この段差を解消し広くします



妙光寺の四季と行事が伝わります

物の寿命が格段に違いますと言われました。そこで客殿の分と併せて毎年積み立てをしてきましたが、来年その10年目に当たります。客殿鉄骨の塗装の痛みが激しいので、この12月から来年7月にかけて順次実施し

たので、写真とデータを差換えて新しい案内パンフレットを作成しました。

これに併せて妙光寺を紹介するカラーチラシを作成し、パンフレットに添えてお渡しする予定です。カラーチラシは次号と一緒に来年3月初旬、皆様にもお届けします。もし親族に渡したいなどで早めにご希望の方はお知らせ下さい。お送りします。

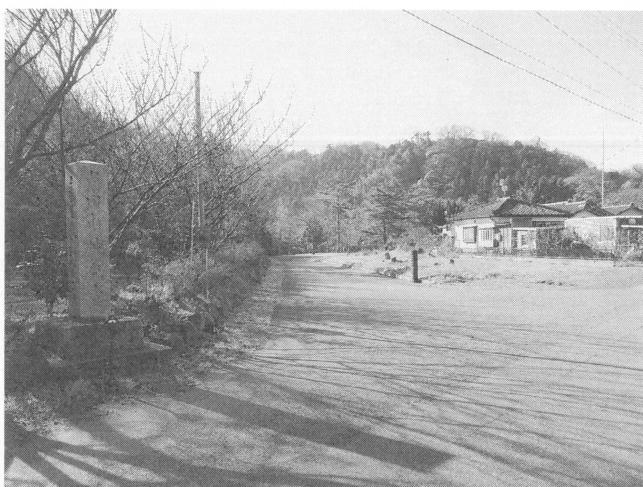
池の上安穏廟は1期工事として今回134区画建設しましたが、申込契約が現在半数を超えていきます。

●参道工事

入口参道の付け替えと拡幅の整備を計画し、皆様にご協力を願いしてきました。しかし費用が多額なことと、長引く不況でなかなか見積り額に届く見通しが立ちません。総代会で相談し、行政と基本合意が出来ている、あまり先伸ばしすると周囲の地権者の同意が得にくくなることが予測される、このままでは墓地を含めた全体の排水整備が滞つて池の上安穏廟の排水にも支障ができる、正

面入口が未整備のまま推移するのは景観上も防犯上も問題。以上の点から道路と排水だけ先行して着工することにしました。費用は池の上安穏廟の収益を充当し、これまでに戴いた寄付金は道路両側の並木など景観整備に充てることにして、引き続きお願いしてまいります。

年内に道路の位置を決定し、1、2月で行政手続、業者選考と契約、3月着工の予定ですが、手続きに手間取り遅れる



この入口の道路を奥まで整備します

●秋奉賀

毎年秋、農家の檀徒の方々から新米の奉納をいただきます。今年も多くの方々から奉納頂きました。祖師堂ご宝前にお

と思います。道路が完成するとイメージが沸きやすくなりますので、景観整備へのご協力を願いいたします。



供えして、お名前を堂内に掲示させていただきました。お礼申しあげます。

彩奉カ貝

卷下 内藤一夫

舟戸 垂川

卷下 小林與志隆

舟戸 垂川

卷下 内藤昭一

白山 笹川津登

田島 高橋賢一

白山 笹川耕

升湯 高橋英一

角田 洋 石田徳一

升湯 俊延藤栄

明田 白井信治

升湯 石田辰左門

上下島 達藤健治郎

升湯 高橋重一助

上下島 達藤忠彦

剣前 内藤昇

卷上 小林 葵

剣前 内藤三男

卷上 小林 葵

剣前 内藤泰

卷上 小林 葵

菊花展示



小泉さん退職

(卷) さんと河村一良（松山）さんが、丹精込めた鉢をお持ちくださいました。一ヶ月間余りの期間、秋の彩で玄関がすっかり華やかになり、皆さんが感心して眺めていました。特に県外からの若い方は、岩の上に根を張った姿を不思議そうに見つめしていました。

これほどの方の代わりはないので大変な痛手ですが、病気となれば無理はお願いできません。当面は専従者でなく業者に依頼するかたちで進めます。



各種ご案内

韓国ソウルの花祭り団体旅行

別紙ご案内のように、韓国ソウルでお釈迦様の誕生日をお祝いする花祭りにご案内します。韓国の人約50%は熱心な仏教徒で、各地のお寺はいつもお参りの人でにぎわっています。特にこの花祭りは盛大で普段お寺に行かない人でも3ヶ所はお参りするとかで、文字通りお祭りの華やかさです。

住職と長い親交のある韓国の人が顔の広い方で、お寺関係は元よりホテルとレストランまで紹介いただき、旅行会社も手が出せませんと言うほど好条件です。一般のツアーヒとは違う旅にぜひご参加下さい。お友達等を誘つていただいても結構です。

北朝鮮との関係が心配されていますが、半年先のことですでの安定するものと考えています。事態が收拾しないときは早めに中止を決めますので、ご心配なくどうぞ。

月例信行会

毎月第一日曜の朝7時から信行会を行っています。本堂で簡単なお勤めと法話、その後に作務行として30分の庭掃きなどで体を動かし、8時半から朝食をとり解散です。さらにコーヒーを飲んでゆつくりおしゃべりしていく方もいます。

りしていく方もいます。

予約不要で当日直接に本堂へ入り、仏様へのお気持ちとして千円を賽銭箱にお願いしています。毎回15~25人程。どなたでもお気軽にどうぞ。1月は正月、2月は天候が悪いので休止し、3月6日から再開します。

春の一日研修会

まつたくの初心者から回数を重ねてお経の読める方まで、どなたでも気軽にどうぞ。平成23年4月10日(日)9時から3時半まで。詳細は3月初旬発行の次号でお知らせします。

年回忌のお知らせ

妙光寺が葬儀をお受けした方で、来年に法事の当たるお宅には直接お知らせします。法要は土日に集中しますので日程のご相談は早目にどうぞ。本堂での法要の場合はお墓のお花まで一切を妙光寺で用意できます。ご相談ください。

位牌堂安置と永代供養

本堂脇の位牌段に、申し込まれた方の位牌を安置して朝の法要で毎月の命日の精靈をご供養します。費用は1軒1年間1万2千円。継続の方はお知らせしますので、平成23年分を3月までにお納め下さい。この30年間分30万円からを永代供養としています。

出会い



山形から久しぶりにT子さんが訪ねてくれました。以前はフェースティバル安穏の常連さんで、ご自分で運転して参加させていたのが、最近は足が弱つて近所まで歩くのがやっと。一人暮らしで冬は外にも出られないから、年々心細くなるといいます。今回は弟さんが「姉ちゃんの入る墓の場所をよく聞いたとかねえと、もしものときに困るからな」と、千葉から山形に迎えに行って、一緒に来てくれたそうです。

確かT子さんには夏のフェースティバルで親しくなった歳の若い新潟のお友達がいました。「お友達になつたM子さんは?」と尋ねたら、連絡して今ここに向かっているとのこと。間もなく現れたM子さんを交え、話が弾みました。T子さんが入院したとき、M子さんが山形の病院に見舞つて得意のオカリナを吹いてくれたことがとても嬉し

かつたなんて話も。弟さんに促されて「以前一緒にドライブしたあそこに行つてまたお昼を食べようか」となり、M子さんに手を支えられて玄関を出て行く姿が、実の姉妹か親子のようにも見えてとても微笑ましく感じられました。

同じ頃、群馬県桐生市に住むS子さんの姪御さんからの電話で、S子さんが亡くなられたとお知らせがありました。独り身のS子さんは桐生で開業医だつたお兄さんの医院の事務職を辞す

と、妙光寺の近くにと新潟市のケアハウスに入居されました。その頃何かお手伝いしたいと申し出られた近くに住むK子さんを紹介し、K子さんの運転する車で時々お寺に来たり、一緒にお茶を飲んだりしていました。数年後に認知症が心配だからと姪御さんの暮らす桐生に戻り、施設に入居されたのです。

安穏廟も20年以上が経過して様々な人生が蓄積していく感じです。夏の『万灯の灯り・フェースティバル安穏』の反省会を踏まえた来年の相談が、20人のスタッフで始まりました。さらにお寺での行事や、それぞれの連絡を通じて新たなお友達の輪が広がつて行くことを願っています。

「本人の希望なので」ということで急ぎ住職が桐生に伺つて姪御さん家族が同席する中で読経を勤め、お彼岸中で時間のやり繰りがつかなくてとり合えず茶毎に付しました。後日、妙光寺本堂に遺骨を安置して改めて葬儀を行ない、姪御さんと、K子さんの2人が参列し埋葬されました。

姪御さんとK子さんは初対面でした

「流れる時間のなかで」

小川なぎさ



年末調整の書類を書きながら何かに追われるようビューンと過ぎてしまったこの一年を振り返っている。手帳には簡単な日程が書き込んであるのだが、余白には見ておきたい映画や読みたい本の題名などのメモが記されているものの、なかなか自分の思うような時間の過ごし方はできなかつた。悔やまれることも多い。しかし幸せだと思う出来事も振り返ればたくさんあつたようだ。

寺のスタッフが増えて私の仕事の負担は激減した。でも家事をきちんとこなすにはそれなりの時間が必要だし、掃除を始めればこの寺の広さゆえに簡単に終わらないので、結局あわただしく一日が過ぎてしまつた。それでもよくよく考えてみると私は結構掃除や炊事などの家事は好きなほうだということに気がついたので、満足な年だったと締めくくることしよう。

寺の大部がいつでも誰でも自由に入り出するような空間の中で、廊下

の突き当りは唯一家庭の匂いのする二十畳ほどの居室で、ここで四人の娘を育てた。だから大人になつた娘が帰省しても家族六人と犬がひしめきあって眠り、テレビをみたりする。また私の事務室でもあるので、はやりの断捨離（だんしゃり）のようにものを捨ててすつきりと暮らす・・ということにあこがれつつも、ものすごくごちゃごちやしている。壁も畳もぼろぼろだし、忙しい住職は気持ちが休まらないと時々不満をもらすのだけれど、それが家族を持つたが故の苦しみだと我慢してもらうしかない。

そんなこともあつて、年齢的にも気力だけではどうしても疲れがとれないことがたびたびおきたので、静かな落ち着いた環境が（たとえば病気で薬を飲むように）必要になり、車で十分のところに社宅を設けていた。古い中古住宅だが、住職はここで原稿を書いたり休息をし、私は一人になりたいときに泊まつたりする。外国の友人

が長逗留し、娘の友人が親と喧嘩し家出をして泊まつたこともある。永石上人もここで一年あまり暮らした。

草や竹やぶのうつそうとした古い寺を、ここまで活氣のある今のような寺にするまでにはそれなりに苦労もあつた。しかししながらこの三十五年の時間の流れの中で、たくさんの方々のお力により住職も過労死にならずにやつて来れた。これは幸せ以外のなにものでもないし、これ以上望んだらバチが当たると思つたりもする。妻としてはあまりにもお坊さん的な住職の生き方に不満がないわけではないが、もうあきらめた。同時に自分自身も物事に執着が無くなってきたので少しずつ気持ちが楽になってきたこともあって、来年も感謝の気持ちを持ち、心して過ごそうと念じている。

秋に神奈川のSさんがみなさんの健康のためにと、浄水活水器を寄付して下さいました。水道管の元に取り付けられたので、寺のすべての蛇口から健康に良い水が出ます。安心してお飲みいただこうとができるようになりました。ありがとうございました。「感謝して師走の空を見上げつづく多かれと銀杏を拾う」来年もよろしくお願いします。

行事案内



お札配り

暮れのお経にお仏壇のある全檀信徒宅にお伺いし、来年のお札をお届けしています。

除夜の鐘

大晦日は夜10時30分から本堂で除夜法要、11時40分頃から皆さんで鐘を撞きます。客殿大玄関の受付で順番札を受け取り、番号を呼ばれるまでお焚き上げの火の近くかテント内でお待ち下さい。甘酒、記念呑み、くじ引きもあります。古いお札や注連縄はお焚き上げがあります。どなたでもお誘いあわせお出かけ下さい。

元旦年始参り

新年は元旦と2日の午前9時から午後4時まで受付です。大広間で住職がお待ちしていますので、遠慮なくお入り下さい。新年は本堂へのお参りから始めましょう。

星祭祈願

1年間の室内安全、健康、幸福を祈願する「星祭」は1軒2千円です。家族全員のその年の星を記入したお札を、元旦の法要で祈願の上お渡しします。遠隔地の方は郵送します。新規申込の方のみ、家族全員のお名前と生年月日を書いてお知らせ下さい。

厄除け合同祈願

2月5日6日前前11時 詳細は別紙で

月例信行会は1、2月休止、3月6日から再開します

あとがき



この秋も断りきれない分だけで、県外を含めて2ヶ月で8回の講演に追われました。呼んでいただけるのは有難いのですが、他の仕事が遅れたり、皆さんとゆっくりお話しできなかつたりします。今季号は12月早々にお届け予定が半月遅れで、境内のボランティア清掃のご案内が間に合いませんでした。

本当に早いもので今年も暮れます。来年こそはじっくりと取り組みたいと思うことが多いのですが、どうなりますか。皆様も大事にお過ごしいただき、良いお年をお迎え下さい。来年もよろしくお願いします。

小川